

2012年12月16日に三段山で発生した雪崩の調査速報

日本雪氷学会北海道支部雪氷災害調査チーム

発生地点：北海道上富良野町三段山中腹（通称二段目付近）

発生日：2012年12月16日午前10時頃

調査日：2012年12月17日

調査メンバー：

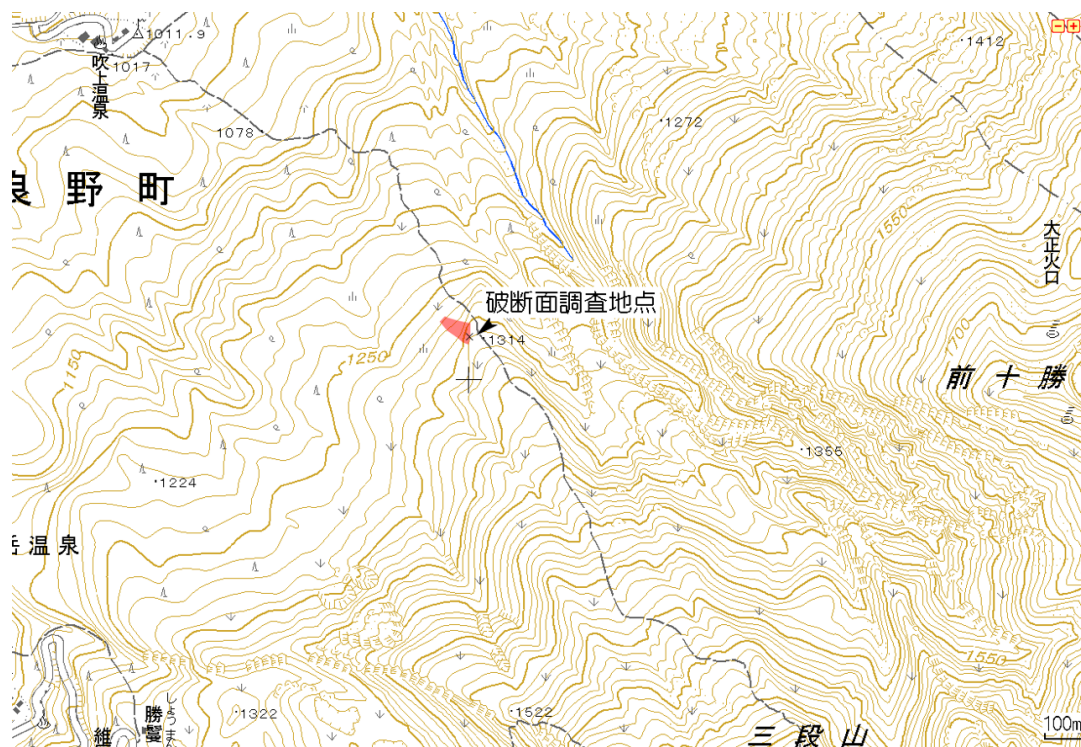
研究部門：山野井克己（リーダー）、中村一樹

ガイド部門：大西人史（サブリーダー）、菊地基、山本行秀

同行者（日本雪崩ネットワーク）：池田慎二、林智加子

<調査結果概要>

- ・破断面調査地点位置：N43° 25'27.07", E142° 39'15.36"、標高 1307m
- ・デブリ末端標高 1272m、破断面最高標高 1310m
- ・緩斜面から急斜面へ変化する北西向きの斜面、斜度 30-40 度
- ・堅めのスラブの面発生乾雪表層雪崩
- ・雪崩の規模：破断面幅最大約 60m、水平距離最大約 70m、破断面の厚さ 40-80cm、標高差約 30-40m
- ・5 cm程度の厚さの降雪結晶(1-2mm)の弱層があり、層内で破壊が起こっていた。
- ・破断面付近のシャベルコンプレッションテストでは、四角柱を切り出している最中に破壊する箇所もあれば、腕全体を使って手の平でしっかりとたくと破壊する箇所もあり、ばらつきがあった。
- ・この層の安定化に注意する必要がある。



「この背景地図等データは、国土地理院の電子国土 Web システムから配信されたものである。」

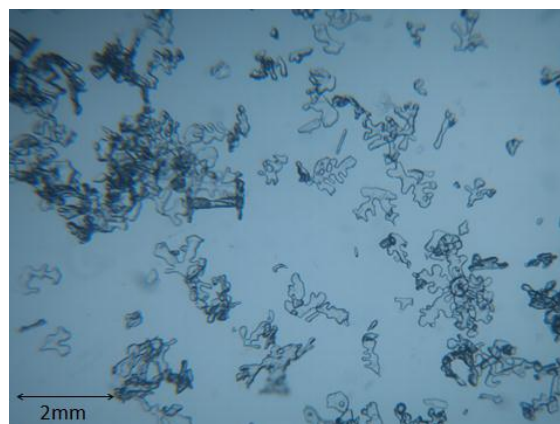
雪崩発生位置（破断面調査地点とデブリ範囲）



破断面とデブリ



破断面調査



弱層となった積雪層の結晶
(降雪結晶の形状が残っている。)

詳しい調査結果は、近日中に雪氷災害調査チームホームページで公表する予定です。

URL : <http://glacier.ees.hokudai.ac.jp/snow/>